

「幸水」の開花期におけるホルクロルフェニユロン処理の着果率向上効果

【要約】日本なし「幸水」において、サイトカイニン活性を有するホルクロルフェニユロン(CPPU)の開花時又は開花前の処理は、着果率が向上し、果実肥大促進効果と成熟抑制効果がある。しかし、ほとんどが有てい果になる。

三重県農業技術センター栽培部果樹担当 連絡先 05984-2-6358

部会名	果樹	専門	栽培	対象	果樹類	分類	研究
-----	----	----	----	----	-----	----	----

〔背景・ねらい〕

日本なし栽培においては人工受粉が不可欠であるが、作業期間が短く手間が掛かる。そこで、人工受粉作業を簡略化させるために、CPPUの着果に及ぼす影響について検討した。

〔成果の内容・特徴〕

- ① 雌ざい先端部を除去し、満開4日前にCPPU10ppmを花全体に噴霧すると、受粉区と同程度の着果率で単為結果する。果実は大きく、有てい果になる。また、成熟は約1週間遅れる。(表1)
- ② 受粉遮断を行わずに、CPPUを開花時又は開花前に花全体に噴霧すると、無受粉区よりも着果率は向上するが、濃度が高いほど有てい果率が高くなる。成熟は受粉区よりも遅れ、果実はより大きくなる。(表2)

〔成果の活用面・留意点〕

- ① 人工受粉の労力を軽減することができる。
- ② 果実肥大効果が期待できる。
- ③ 成熟を遅らすことができる。
- ④ 有てい果が多くなる。

〔具体的データ〕

表1. ホルクロルフェニユロン(CPPU)が日本なし「幸水」の着果と成熟、及び果実肥大に及ぼす影響(平5)

処 理	着果率 %	有てい果 率%	収穫期(月/日)			平均重 (g)	完全種子 数(個)	ut数 (個)
			始	盛	終			
満開4日前CPPU10ppm+雌ざい除去	62	98	8/24	9/1	9/3	344	0.0	13.4
受 粉	57	0	8/19	8/24	8/29	301	4.3	10.1

表2. ホルクロルフェニユロン(CPPU)が日本なし「幸水」の着果と成熟、及び果実肥大に及ぼす影響(平6)

処 理	着果率 %	有てい果 率%	収穫期(月/日)			平均重 (g)	完全種子 数(個)	ut数 (個)
			始	盛	終			
満開9日前CPPU10ppm	38	17	8/15	8/21	9/1	329	3.4	9.1
満開3日前CPPU10ppm	40	38	8/16	8/23	9/2	377	3.0	10.3
満開1日後CPPU5ppm	31	15	8/15	8/22	8/28	327	3.8	9.0
満開1日後CPPU10ppm	37	15	8/15	8/22	8/31	320	2.2	10.0
満開1日後CPPU25ppm	44	51	8/16	8/25	9/2	336	4.1	8.6
満開1日後CPPU50ppm	53	72	8/15	8/27	9/8	335	1.6	11.0
受 粉	60	2	8/15	8/18	8/26	309	6.3	6.4
無 受 粉	19	3	8/15	8/24	8/29	292	3.1	9.8

注) 雌ざい除去や袋掛け等による受粉遮断は行わなかった。有てい果は摘果時にできるだけ摘果した。

〔その他〕

研究課題名 : 開花時のホルクロルフェニユロン散布がニホンナシ「幸水」の成熟と果実肥大に及ぼす影響
 予算区分 : 県単
 研究期間 : 平成6年(平成5~7年)
 研究担当者 : 輪田健二、服部吉男